

## 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

平成30年9月5日  
佐賀市立勸興小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



国語 A(知識)では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の4領域すべてで、全国や県を上回っていた。しかし、漢字を文の中で正しく使う出題で「管理」の正答率が低かった。

国語 B(活用)を見てみると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域すべてで、全国や県を上回っていた。記述式の問題の無回答率が低かったことも平均を上回った要因と考えられる。しかし、目的や意図に応じて、文章全体の効果を考える問題で正答率が低かった。

#### (2) 成果(○)と課題(△)

##### 話す・聞く

○授業や行事等で話を集中して聞き、知りたいことを落とさないようにしながら相手の話を聞く学習訓練の成果が表れている。今後も話す・聞く指導を継続していく。

△日頃の授業では、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら話すことに課題がある。授業の中での話し合い活動「かいわタイム」の視点の持たせ方を工夫し、意図を持って取り組ませる活動にしていく必要がある。

##### 書く

○自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考えて記述することが出来ていた。これは、日頃の授業の中で自分の考えを書く活動の時間を取ったり、感想や振り返りを書かせたりする場面を取り入れている成果だと思われる。

△目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書く問題に対しての正答率が低かった。「書く」活動を授業の中で計画的に仕組み、書きたい中心を明確にして書けるような教材を工夫して個別の指導を図っていく必要がある。また、チャレンジタイムの時間に、新聞のコラムの感想や意見を書かせたり、条件作文に取り組ませたりして、書くことの日常化を図っていく必要がある。

##### 読む

○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことや複数の文章の中から解答を導き出すことが出来ていた。これは、授業の中の心情を捉える学習場面で読みを深めたり、気持ちを書かせたりする活動の成果だと思われる。また、読書を奨励し、いろいろな本に触れさせていることも要因だと思われる。

△情景描写を基に捉える授業では、想像力や自分の知識や経験などと関連づけながら、どのように考えるか意識して文章を読ませたい。

##### 言語事項

○学年別に漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく書いたり、読んだりする力は、朝の時間の「すくすくテスト」や家庭学習等の成果が表れて正答率が高い。

△「管理」という漢字を文の中で正しく書けていなかった。漢字の持つ意味を考えて書く習慣付けを図っていく必要がある。また、語彙や語句を獲得するために、国語辞典や漢字辞典を使って調べる活動も取り入れていきたい。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 授業の「めあて」「見通し」「まとめ」「振り返り」がわかる授業を展開していきます。
- 各教科で、伝え合い活動(かいわタイム)を取り入れ、考えを表現し意見交流する場を数多く設定して、コミュニケーション力を高めていきます。
- 自分の考えをノートに書き表す場面では、相手に伝える意識を持たせ、より分かりやすくまとめる力の習得を目指します。

#### 【ご家庭では】

- まずは音読が基本です。音読を毎日聞いてください。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書のジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

## 2 算数

### (1) 結果

#### 全国正答率との比較



算数 A(知識)では、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域すべてで、全国・県平均を上回っている。しかし、小数の除法の意味や円周率の意味についての理解に課題がある。

算数 B(活用)でも、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域すべてで、全国・県平均を上回っている。しかし、数量関係に於いて、棒グラフや帯グラフからの読み取りに課題がある。

### (2) 成果(O)と課題(△)

#### 数と計算

○示された情報を解釈し、条件に合った解答の正答率が高い。また、1に当たる大きさを求める問題場面における数量を数直線上に表すことや除法を用いて正解を導き出す正答率も高い。日頃の授業の中で、TTの授業や少人数授業を通して、自力解決の時間を確保して、問題に取り組むことが出来ている成果だと思われる。

△示された考えを解釈し、他の数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することや分配の法則の式に表現する問題の正答率が低い。授業の中で、資料や表・グラフから読み取る力をつけるために、分かったことを書く活動を多く取り入れていく必要がある。そして、チャレンジタイムや単元末の練習学習の時間を通して、習熟に努める。

#### 量と測定

○ $180^\circ$ の角の大きさの理解、 $180^\circ$ より大きい角の大きさの理解、混み具合の比べ方の理解の正答率が高い。これは、日頃の授業の中での操作活動の習熟が図られている成果と思われる。今後も、具体物を用いたり、操作活動を取り入れたりする授業を継続していく。

△単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味の正答率が低い。表を見て理由を記述する問題などでは、条件に合った文章を書くことが苦手な児童もいるため、授業の中で自力解決の時間に図、式、言葉で記述する活動を多く取り入れていく必要がある。

#### 図形

○示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置表現や条件に合う図形を見いだすことの正答率が高い。授業の終末に適応問題を多く取り入れて習熟を図った成果だと思われる。

△理由を記述することや円周率の意味、直径と円周の長さの関係などの正答率が低い。授業の中で、繰り返し言葉の意味を言わせたり、書かせたりして習熟を図っていく必要がある。また、図形の見方を一つだけでなく、多様な見方ができるように具体物を通して指導していく必要もある。

#### 数量関係

○折れ線グラフからの読み取りや示された問題の解釈は出来ている。練習と習得を繰り返す「すくすくテスト」の効果が大きく、今後も子どもたちの自信になるよう継続していく。

△百分率を求めることや2つ以上の資料からの読み取りの正答率が低い。そこで、正しく問題を理解するために、図・式・ことばを使って表す自力解決の時間を大切にしていける必要がある。

### (3) 学力向上のための取り組み

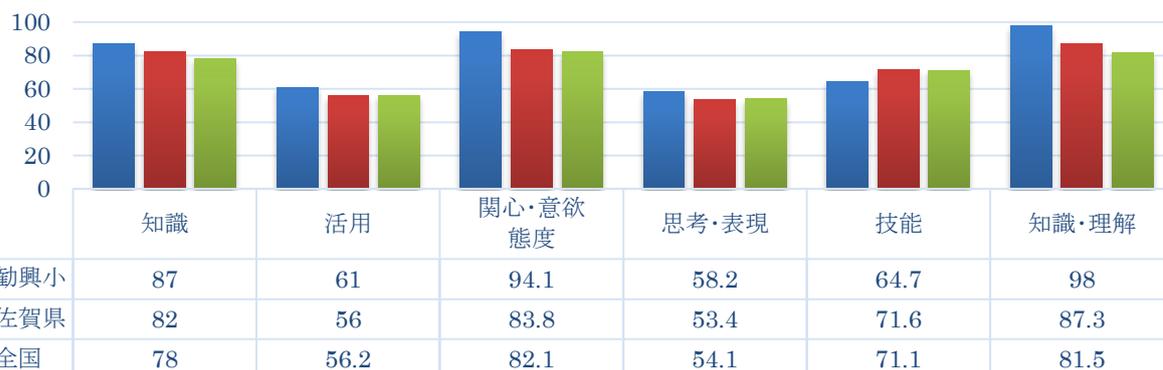
#### 【学校では】

- 金曜日の朝のチャレンジタイムでは、全校で国語と算数の基礎・基本プリントに取り組ませ学力向上を図ります。
- 高学年では、月曜日の朝「すくすくテスト」に取り組めます。前の週に課題を宿題に出し、月曜日の朝実施、火曜日の放課後には、再テストをして習熟を図ります。
- 授業では、友だちの意見を繰り返し言ったり、言い換えたり、付け加えたりまとめたりする言語活動を多く取り入れ、みんなで理解を深める話し合い活動(かいわタイム)を全学級で実践します。
- 「かいわタイム」の視点の持たせ方を工夫し、授業の中で「話し合い活動」に意図を持って取り組ませていきます。

#### 【ご家庭では】

- 「家庭学習がんばり表」の中の「時間や場所を決めて学習すること」は、勉強する習慣をつけ、集中力を培うことに繋がります。場所は、学習机でも食卓でもいいですので、その場所に同じ時間帯に座る習慣をつけることが大事です。
- お子さんが今何を学習しているのか、理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのかを知るために、ドリルやプリント等の宿題・テストに目を通してください。そして、励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。

## 理科



理科の知識では、「自然事象についての知識・理解」については、全国・県平均を上回っている。

理科の活用では、技能に課題があり全国・県平均を下回っている。その中でも、ろ過の適切な操作方法の技能に課題がある。

### (2) 成果(○)と課題(△)

#### 関心・意欲・態度

○安全に留意し、生物を愛護する態度を持って、観察できる方法の構想はできている。これは、主体的に学習に取り組む態度が身につけている成果だと思われる。今後も、理科に限らず「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた学習を展開していく。

#### 思考・表現

○2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することや問題に対応した視点で分析することの正答率が高い。今後も異なる資料を基に考察するプリントや習熟問題に継続して取り組んでいく。

△実験結果を基に分析考察し、その内容を記述することや太陽の位置変化と光電池に生じる電流の変化を目的に合ったものづくりに適応することに課題がある。授業の中で、自力解決やまとめの時間に簡単な結果記述で終わるのではなく、理由を記述することを重視した展開を図る。

#### 技能

△ろ過の適切な操作方法に課題がある。実験方法の説明の段階で、注意することを理由付けして児童に考えさせる時間を設けて、適切な実験ができるようにする。

#### 知識・理解

○骨と骨のつながり目のことや堆積作用について、科学的な言葉や概念の理解の正答率が高い。今後も、教材教具の工夫を取り入れた授業を展開し、児童の確かな理解を図る。

## 3 生活習慣や学習習慣に関する調査

### (1) 結果

《生活習慣について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	88.2	88.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	82.2	77.0
朝食を毎日食べていますか。	90.2	84.8
家の人と学校での出来事について話しますか。	82.4	80.5
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	54.9	62.7
平日読書を30分以上している。	34.4	45.6
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。	86.3	86.2

起床については、全国平均並みで、就寝・朝食については全国平均を上回り、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムも概ねできているようである。家庭の協力のおかげで遅刻は少ない。

地域の行事への参加率が50%台で、全国平均を下回っている。参加している児童は、多くの行事に参加しているが、ほとんど参加しない児童の割合が多い。学校からの啓発活動が必要である。

家での読書の時間が30分以上の割合が全国平均を下回っている。家庭での読書のすすめを「図書館便り」「学級通信」等で呼びかけていく必要がある。

#### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。	76.5	67.6
家で、学校の宿題をしていますか。	94.1	97.1
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。	74.5	62.6
家で、予習・復習やテスト勉強において、教科書を使いながらしていますか。	76.5	69.9
家で、1日当たり1時間以上勉強していますか。(学習塾・家庭教師を含む)	74.5	66.2

自分で計画を立てて勉強している児童の割合が全国平均を上回っている。これは、家庭の協力のおかげである。しかし、宿題をしている割合が若干全国平均を下回っている。決まった児童が忘れる傾向にあるので個別に声をかけて支援していく必要がある。

授業の予習・復習の割合や教科書を使う割合、そして、1日当たり1時間以上勉強している割合も全国平均を上回っている。今後も継続できるよう小中連携で行っている「家庭学習・生活がんばり表」の強化月間などで、家庭学習の定着を図っていく。

#### (2) 改善に向けての取り組み

##### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」等を基本に宿題を出します。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示するなどして定着しつつあります。これから、低・中学年にも少しずつ広げていきたいと考えています。
- 学習の「振り返り力」を高めるために、「めあて」に沿った振り返りの視点や判断する基準を明確にして、いろいろな教科で取り入れていきます。

##### 【ご家庭では】

- 家庭での読書の時間が少ないようです。「テレビやゲームの時間」を「読書の時間」にするよう声をかけていただくと有り難いです。
- 早寝・早起きの習慣、朝ご飯を食べる習慣、学習する習慣は、中学校に向けた習慣として大切なことです。ご家庭のご協力を一層宜しくお願い致します。